



## IFALPA の訓練に対する取り組み— IPTS 開催

### 「エアラインパイロットの訓練」について考える-4

IFALPA HUPER 委員会では 2010 年 10 月 25 日から 5 日間の日程を組み IPTS (IFALPA PILOT Training Standard) を開催しました。

このシリーズでは「エアラインパイロットの訓練について考える」のシリーズとして、IFALPA の考える「The Future of Flight Training (将来の乗員訓練)」第4部をお送りいたします。

#### 7. 定期訓練

##### 優良な定期訓練とは

教官と訓練生の良好なコミュニケーションのためには打解けた雰囲気が必要である。訓練生と教官が交互にコミュニケーションをとることによって、それぞれの意見を生み出すことができる。

重要なのは審査のために訓練するのではなく、「自発的に学ぶ」ことであって、訓練生はシミュレーター訓練のブランク時間（自由時間）に何の科目を実施するのか自分で決めるべきである。

このような柔軟性のある訓練は、「意義のある知識」を付与することができ、「意義のある知識」を身につけることによって本当の意味で将来危機から身を守ることができるようになる。

訓練は高性能で忠実性の高いシミュレーターを使用すべきである。

訓練効率を最大のものとするためには訓練機器を使用した訓練時間はもちろんのこと、ブリーフィングとデブリーフィングの時間を十分にとるべきである。

##### 実運航に則したシナリオ

インシデント等の事態を悪化させないようにするために、訓練に使用するシナリオは FOQA, LOSA Data, PIREP 等の実運航の事象に則したものであるべきである。

##### 訓練を実施する間隔

各国の様々な運航環境がある中、定期訓練を一律の期間に実施することは柔軟性があるとは言えない。航空会社の運航環境の求められる内容によって、各国の当局は、訓練の内容を調整するべきである。



#### 8.おわりに

パイロットの訓練を成功させるために、ICAO、航空局、航空機メーカー、航空会社、訓練施設等の航空関係者の訓練に対する研究、理解と貢献が極めて重要である。

更に強調すべきは、「訓練」とはパイロットの能力を審査することが目的なのではなく、パイロットの能力を向上させることが目的であるということである。

訓練は総合的に管理されたシステムの中で実施されるべきである。

そして訓練の関係者が訓練生に課せられた責任を理解し、訓練生が将来乗員として能力を発揮し、自信を持って乗務ができるような訓練を受講できるようにすることが必要である。

この IFALPA Position Paper は今後、IPTS Manual の策定に向けた取り組みへと発展させていきます。

我々日乗連では IFALPA の訓練に関する専門チームと連携し、訓練に関する最新情報の収集、将来の訓練のあるべき姿について議論を重ね、組合員の皆様に情報をお伝えしていきます。

以上